

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	京都市教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
京都市	特別支援学校	全日制・総合制	きょうとしりつしらかわそうごうしえんがっこう 京都市立白河総合支援学校
京都市	特別支援学校	全日制・総合制	きょうとしりつひがしまそうごうしえんがっこう 京都市立東山総合支援学校
京都市	特別支援学校	全日制・総合制	きょうとしりつなるたきそうごうしえんがっこう 京都市立鳴滝総合支援学校（生活産業科のみ）

2 研究課題

就労に向けた基盤となる自己肯定感を育むための地域協働・共生型活動の開発
～キャリア発達を促すための教育環境の開発と新たな就労支援の在り方～

3 研究の概要

京都市立総合支援学校高等部職業学科は、平成16年度の設置以降、企業との連携による産業現場実習を中心とした取組により、高い就職率を維持し職域の開発にも成果を上げてきた。その一方で、自分を肯定的に捉えられないことで、仕事や実生活に向き合うことが難しい生徒の存在が顕在化し、彼らのキャリア発達への支援の在り方が課題となってきた。本研究では、「自己肯定感を高めること」に焦点をあて、働くための基盤となる資質や能力を育成するために、地域協働活動を通じた新しい職業学科教育の在り方の開発を目指すことにした。

また、これまでの2年間の研究において、地域協働活動の有効性について検証を進める中で、異年齢の人と共に活動し、相互に必要なとしかう関係性を築くことで自己肯定感を高めることができることが分かってきた。

3年目である平成28年度は、地域協働活動の取組をさらに積極的に推進することと併せて、職業学科3校の教育資源の相互活用（リソース活用）を進め、個々の生徒のキャリア発達を促す「学びの環境をデザインする」取組を推進することとした。そして、障害のある生徒が主体的に社会参加し、就労を通して自立を目指すことのできる資質と能力の育成のあり方を研究を通して明らかにしていく。

また、自己肯定感や自尊感情を高めるこの取組は、高等学校等に在籍する発達障害の生徒の指導や他の総合支援学校高等部生徒の指導にも有用であると考えており、研究の成果の情報発信の

あり方についても検討を行うこととした。

4 研究の成果

(1) 自己肯定感・自尊感情に関する評価のあり方

自己有用感の数値化や高まりを評価することは難しいため、「共通フォーマット」を作成し、生徒の変容する過程を丁寧に観察し、学習の振り返りや指導者との対話を重ね、生徒の言葉にならない考えや生徒自身が気付いていない思いを引き出し、言語化や文字化を図った。

(2) 職業学科3校の教育資源の共有（リソース活用とプラットフォーム構想）

リソース活用は、生徒たちが違う学校において学ぶことで、自分たちが今まで学校で学んできたことの「意味や価値」を改めて理解する場となるだけでなく、指導者にとっても、教育環境の違いや生徒の意識の変容に接することで、指導者の生徒観や指導観の意識の変化が見られ、指導者自身のキャリア発達を促すことにつながった。

(3) 地域協働活動

各校で長年培ってきた教育資源と地域の資源との多様な組み合わせや地域との新たな提携により、積極的に地域協働活動の取組を創造することができた。

生徒にとって、「地域の方に喜んでもらった、役に立てた」と直接的に実感できる場であると同時に、地域の方にとっても、「助かった、楽しかった」と実感できる場になり、地域や生徒、学校の互いに必要とする関係が構築された。

(4) 企業及び卒業生からのアンケート、卒業生の実態の調査・分析

企業及び卒業生を対象としたアンケート調査と、6人の卒業生をピックアップして、それぞれの5年間の歩みについて縦断的に調査を行った。

この調査から、できることが増え仕事を任されることが、うれしさや達成感につながり、その感情により自己肯定感が育まれ、就労継続や向上心に繋がることが確かめられた。

5 課題と今後の方策

平成26年度から、職業学科3校で合同して研究を進め、それぞれが持つ教育資源やデータを整理してきた。取り組んできた実践をお互いの強みとして共有し、多様な生徒の学習の場を設定するという今までにない取組を行ってきた。今後、職業学科における地域協働活動、教育資源の相互活用をさらに展開してだけでなく、京都市全域を視野に入れ、職業学科以外の総合支援学校や発達障害のある生徒が多数在籍する高等学校に広げていかなければならない。そのために、どのようなニーズをもった生徒がどのようなリソースを活用できるのか、職業学科3校から発信していく必要がある。そこで、本研究の成果と「自尊感情・自己肯定感」を高めるための活動の趣旨の理解を広げていくために「事例集」を作成した。

「事例集」には、本研究で得られた「地域協働活動」と「教育資源の相互活用」のデータや情報が蓄積されている。しかし、単に3校の教育資源のコンテンツを各校に紹介するだけでなく、これらの教育資源をどのように活用できるのかわかるようにする必要があり、そのためには、職業学科3校それぞれにリソース活用の学習窓口を設け、他校との取組をコーディネートしていく組織的な

仕組みが必要である。

そのような仕組みを形成することで、新たな学びの場が広がり、生徒にとって、必要な時に必要な学びが提供される環境の開発に直接つながると考える。